



営農NEWS



ナシのナシヒメシンクイ適期防除およびアブラムシ類の防除を実施しましょう

ナシヒメシンクイは年間 3~4 世代を繰り返し、通常、世代を重ねるほど発生量が多くなって、ナシでは 7~9 月の密度が最も高くなります。

樹皮の隙間や割れ目に作られたマユの中で越冬した老熟幼虫が 4~5 月頃に羽化し、その越冬世代成虫は主に果樹園近くのモモやウメなどに移動して葉裏や新梢に産卵します。そこでふ化した第 1 世代幼虫が新梢などに食入し、モモやウメなどの芯折れ被害となります。その後、(第 1 世代以降の) 成虫は主にモモ、ナシ、リンゴなどの果実に産卵し、ふ化した(第 2 世代以降の) 幼虫が果実内に食入します。食入した幼虫は、穴から糞を出しながら中心部へ向けて果肉を食害します。成虫の生存期間は 5~12 日で、その間に産卵を行い、気温が高くなるにつれて産卵期間が短くなり、次世代の出現が早くなります。

病害虫発生予報 6 月号(県病害虫防除所)によりますと、5 月下旬現在、県予察圃に設置したフェロモントラップにおけるナシヒメシンクイ越冬世代成虫の誘殺数は平年より多く、また、小美玉市、笠間市、かすみがうら市および土浦市におけるフェロモントラップへの誘殺数は平年よりやや多い~多い状況で、誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から第 1 世代成虫の発生時期は平年並~やや早いと予想されています。

この結果、ナシにおけるナシヒメシンクイ第 2 世代幼虫に対する防除適期(第 1 世代成虫の誘殺最盛期の 7~9 日後)は 6 月下旬頃とされていますので、「赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例」に基づき、または、下記の有効薬剤を参考に、確実に薬剤防除を実施してください。

さらに、ナシのアブラムシ類の発生は、5 月下旬現在、寄生新梢および発生地点ともに平年より多くなっています。アブラムシ類が多発生しますと、すす病の発生原因となり発病が多くなるため、寄生を確認しましたら、早期の防除を実施してください。

なお、薬剤防除にあたっては 10a 当たり 300ℓを目安に、かけむらのないように丁寧に散布してください。圃場の周辺部など薬液のかかりにくい場所は、手散布などにより補正散布を行うことが重要です。

表 1 ナシにおけるシンクイムシ類、アブラムシ類の主な防除薬剤(平成 26 年 6 月 16 日現在)

薬剤名	対象害虫		希釈倍率	使用時期 / 使用回数
	シンクイムシ類	アブラムシ類		
スプラサイド水和剤	○	○	1,500~ 2,000 倍	(無袋栽培) 収穫 45 日前まで / 2 回以内 (有袋栽培) 収穫 7 日前まで / 3 回以内
スカウトフロアブル	○	○	2,000 倍 1,500~ 2,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内
オリオン水和剤 40	○	○	1,000 倍	収穫 3 日前まで / 2 回以内
MR. ジョーカー水和剤	○		2,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内
ロディー水和剤	○	○	1,000~ 1,500 倍	収穫前日まで / 2 回以内
バリアード顆粒水和剤	○	○	2,000~ 4,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
ディアナWDG	○		5,000~ 10,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
ダイアジノン水和剤 34 (日本ナシの農薬登録)	○	○	1,000 倍 1,000~ 1,500 倍	収穫 14 日前まで / 6 回以内
サムコルフロアブル 10	○		5,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
アディオオン乳剤	○	○	2,000~ 3,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
フェニックスフロアブル	○		4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
スミチオン水和剤 40	○	○	800~ 1,200 倍	(無袋栽培) 収穫 21 日前まで / 6 回以内 (有袋栽培) 収穫 14 日前まで / 6 回以内
ハチハチフロアブル	○	○	1,000 倍 2,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040